

平成28年5月2日
熊本県立松橋支援学校図書館発行

14日夜の地震で震え上がっていた私たちは、16日未明に更に大きな地震に見舞われ恐怖と不安で言葉をなくし、一夜明けて地獄をみているようでした。これまでに経験したことがない地震と余震が続く中、不安な日を送られていることと察します。また、被害を受けられた保護者の皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

今回の度重なる地震で、児童生徒の皆さんの不安はとても大きいと察します。図書館では、児童生徒のみなさんの心の休まる場所と、たくさんの本との出会いを支援していきたいと思っています。また、一刻も早い終息を、一刻も早い日常生活を願うばかりです。

【春の読書週間 4月25日(月)～5月13日(金)が始まっています！】

5月から本格的にオリエンテーションも始めます！図書館のきまりや約束等を、もう一度皆さんに再確認していただき学校の中でいつでも“明るい、楽しい心休まる図書館”にしていきたいと思っています。たくさんの方のご利用をお待ちしています。

宇城中央図書館の本について

図書館中央に宇城中央図書館から借りてきた300冊の本が置いてあります。本校では、学期ごとに300冊の本を借りてきて児童生徒の皆さん、先生方、保護者の方々に貸出を行っています。学校にない本や、興味のある本を集めてきました。生徒の皆さん、先生方、保護者の方々もどうぞ利用して下さい。

【世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ】

くさばよしみ / 編：中川学 / 絵

この本の主人公、前ウルグアイ第40代大統領のホセ・ムヒカさんが、4月5日に初来日されました。大統領任期中の2012年6月に開催された「国連持続可能な開発会議」でのスピーチは、世界中の人々の感動を誘いました。それが絵本になったものです。さらに、給料の9割を慈善事業に寄付、外遊はエコノミークラス、郊外の質素な農家に住み、自家用車は中古のフォルクスワーゲン、服装は常にノーネクタイサンダル履き、という公私に渡る清貧さが、ウルグアイ国内だけでなく世界中の人々に愛され、“世界一貧しい大統領”と呼ばれています。昨年3月に大統領を退任、来日後には上院議員も辞めてウルグアイの子供たちの教育に余生を注ぐ予定だそうです。



そのムヒカさんは、「貧乏な人とは、少ししかものをもっていない人ではなく、欲深くいくら持っても満足しない人だ！」と言っています。みなさんはどう思いますか？

「私が本を読むとき」

私が本を読むようになったのは、成人してからくらいだと思います。教育現場で働くようになってからよく読むようになった本は仕事や子どもに関する本です。大学を卒業し始めて赴任した中学校の校長先生からいただいた本は14年経った今でも机の上に置いてあります。その本は「親ばか、教師ばかが素直な子を育てる」という題で小川義男先生という方が書かれています。内容は題から想像できるように子どもの教育に関する内容です。この本の内容で終始一貫しているのは「子どもに必要なのは愛と厳しさである」ということです。この本の中で感銘を受けたいくつかの言葉を紹介したいと思います。

1つ目は、「十分に愛された子どもは、日なたに干された布団が夜はほのぼのと人を温めるように周囲に愛の放射線を拡散させるものだ」とあります。私も二児の父親となり本当に愛おしい毎日です。厳しく叱ることもあれば、おもいきり甘えさせることもあります。子どもを育てるようになり、学校で子どもと接するとき「彼や彼女たちが俺の子どもだったら、、、」と思うともっと愛を込めて接したいと思うようになりました。たくさんの人に愛をうけた子どもは将来愛をもって人と接するようになります。

2つ目が「厳しさとは一貫性である。ひとたび親や教師がだめだと言ったことは、絶対だめ。言葉が柔らかくともそれが終始一貫していれば、子どもは厳しさをきちんと受け止める。」です。私も「ここは注意しなきゃいけないけど、何回も注意すると俺のこと嫌いになるかな」など心揺らぐときもあります。しかし、子どもの今ではなくその後(将来)を考えるとここは逃してはならないと気持ちを奮い立たせてくれる言葉です。

3つ目「どのように時代が変わろうとも、子どもを健全に育てることは絶対に可能である。教育の荒廃とは、子どもの荒廃でも、時代の荒廃でも、親の荒廃でもない。それは教師の荒廃、教師の指導力の衰退にほかならないのである。」とあります。私はこの文章を見るたびに「自分はやるのに子どもが聞いてくれない。」とか「今の時代は指導しづらい。」など自分の指導力を省みず他のせいにしてはいないかと自分を見つめ直す機会となっています。

このほかにも「叱ってこそその褒め言葉」など紹介したい言葉はたくさんあります。教師だけでなく保護者の方にも参考になるような内容が詰まっています。

私が本を読むときは、自己変容のためやゆっくり時間ができたときに小説などを読んで心穏やかに過ごしたいときになります。情報技術の発達で、パソコンやスマートフォンを利用して今まで見ることができなかった映像を観ることができるようになり便利な時代になりました。まだ見たことのない、行ったことのない場所や物を情報機器で見るともいいことだと思います。しかし、本の中に出てくる風景などを想像する、そして実際にその風景や場所に行ってみることで感動できるかもしれません。例えば、「夕暮れの河川敷ですすきが秋風に吹かれている。」という文章があったとします。「空はオレンジ色かな」「川もオレンジ色に見えるかな」「すすきがたくさんでサワサワと揺れてるのかな」など想像できると思いますが、実際にそのような場所に行ってみる。すると、想像した風景の他に風の音や強さ、土や川の臭い、秋なので少し肌寒いなど全身で感じる事ができる。とても感動できると思いませんか？

読書と本物に触れることを今後は自分の子どもなどに伝えられたらと思います。